

## こども議会議員による「円山動物園のゾウに関する意見交換会」報告書

### ■ 概要

円山動物園でのゾウ飼育について、平成 22 年度に基礎調査、23 年度から検討調査を進めております。

平成 24 年度には、円山動物園における意見募集、市民アンケート等において、ゾウ飼育に関する意見をいただいておりますが、子どもたちからの意見も必要であることから、子ども議会議員の皆さんに円山動物園でのゾウ飼育に関して討議していただきました。

初めに円山動物園から新たなゾウの飼育案について議員の皆さんに説明し、次に、以前ゾウを飼育していた旧ゾウ舎を見学、その後、自由討議をしていただきました。

討議では、単に賛成・反対だけではなく、課題となる経費面を解決する提案や飼育する際のアイデアも出され、活発な意見交換会となりました。円山動物園では、頂いたご意見を今後の参考にさせていただきたいと考えています。

■ 開催日時：平成 24 年 8 月 7 日(火) 13:30~15:30

■ 開催場所：円山動物園

■ 参加者：平成 23 年度の札幌市子ども議会議員 13 名  
(小学生 5 名、中学生 5 名、高校生 3 名)

### ■ 内容：

- ① ゾウ飼育の素案について
- ② 熱帯動物館旧ゾウ舎の見学
- ③ 討議：小学生、中学生、高校生の 3 班に別れ、班内で討議。

### ■ 討議結果の発表：

#### 小学生班(5名)

**「お金がかかりすぎる」という課題を解決する方法を考えてみました！**

班員から出た意見を分類すると①陸上最大の哺乳類として「大きさ」を感じてもらう事は重要なことだ、②飼育することにより観光客(来園者)がたくさん来てくれる、③お金がかかりすぎるのでゾウを飼育するのは難しい、の 3 つになりました。

その中で、「お金がかかりすぎる」という課題が解決できるのであれば、飼育したほうがよいとの意見がまとまりました。

この解決方法を班員で考えたところ、1)園内にゾウの餌を栽培するための畑を作る 2)募金をつのる 3)大口の寄付者を探すなどがあげられました。

また、金銭面で言えば、園への直接的な寄付等だけではなく、②の観光客がたくさん来る事による経済効果を考えてはどうか？という意見が出ました。

観光客に来てもらう方法としては、1)パネルなどの外国語表示をしっかりと行う、2)動物舎の背景を生息地の自然に近いものにする、3)動物舎の裏側が見られるイベントなどを毎月行う、4)ゾウと他の動物をいっしょに飼うといった特徴ある展示をする、5)大きさを感じてもらえるような展示の工夫をする、6)近くで見られるようにする(パネルで代替するなど含む)、7)ゾウをいくつかの角度から見られるようにする、8)何回来ても前とちがう様子が見られる、9)観光客用のお土産として「円山限定商品」を作る、などのアイデアが出ました。

その他、ゾウ導入・飼育用の費用確保のために、動物園の一般入園券を廃止し、少し価格を下げた年間パスポートのみにし、観光客や1回しか来ない人のために記念になるようなパスポートにするという意見もありました。

### 中学生班(5名)

**ゾウを展示するなら、どのような展示の工夫をしたらいいのかも考えてみました！**

賛成意見として、「ゾウはいるだけで動物園の華になる。」、「ゾウ目当てで来園者が増える。」など、陸上最大の哺乳類の存在感をアピールすることで、集客を見込めるとの意見があがりました。

また、誰もが興味を持っているゾウを導入することで、来園者に環境問題について考えてもらうきっかけになり、環境教育に役立つとの意見もありました。

反対意見及び導入に関する課題として、①「ゾウではなくても、ホッキョクグマなど他の動物の繁殖や展示に力をいれればいい。」、②「費用がかかりすぎる。」③「ただゾウを飼育するだけでなく、いろいろな教育活動やイベントをする必要がある。」などの意見がありました。

これらの各意見について討議を進めた結果、①については、「大きくて人気のあるゾウでなければ伝えられないようなことを、積極的に伝えるべきだ。」、②の費用については、「市民の募金を募って建設費用に充てる。」、「アニマルファミリー制度をもっと活用して飼料代に充てる。」、「除雪費やその他の市の歳出を見直して、無駄をなくして、ゾウ舎建設費に充てる。」などの意見がありました。③ゾウ展示の工夫については、「飼育体験」、「裏側案内」「治療現場を見せる。」「環境教育を充実させる。」など、ただゾウを展示するだけでなく、来園者が普段見ることができないバックヤードでの作業を

知ってもらえるようにして、いまゾウが直面している問題について共に考えてもらえるようにしたらよいとの意見がありました。

### 高校生班(3名)

**ゾウ導入による将来の子どもたちへの効果についても話してみました！**

班員3名とも導入に賛成となりました。

その理由としては、①動物園のシンボルとなる、②円山動物園のPR効果が見込める、③希少なゾウの種の保存に寄与できる、④環境教育の教材として活用できる、などがあげられました。

そして、導入の課題となる経費については、募金や寄付といった方法によりまかなうことを考えるのも一案であるという意見があがりました。

さらに、そもそも、導入の可否を決定するに当たっては、いま動物園に来ることのできる客層への効果にとどまらずに、「これからの子どもたち、将来の子どもたちへの効果があることを考えるべき」との鋭い意見が出ました。討議を進める中で、このまま何もしなければ「ゾウを直接見る機会は、今以上に減っていく状況であること」を考えると実行すべきであり、一方で「ゾウの寿命が長いこと」や「繁殖ができれば飼育が継続していけること」といった面を考えると、初期投資としての20億円や、ランニングコストとしての2,000万円/年というのは、決して高くはないと考えるという意見となりました。

### ■ さいごに：

見上園長から、「賛成・反対といった意見だけではなく、さまざまなアイデアや貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。みなさんの意見を参考にして導入に関する検討を進めていきたいと思えます。」とお礼の言葉を伝えました。

■ 実施風景



ゾウ飼育に関する説明



現地見学



討議風景



討議風景



班からの報告



園長よりお礼の挨拶